

令和4年第2回江別市総合教育会議

1 日時 令和4年11月11日（金）午後1時30分～午後3時00分

2 場所 公室

3 出席者

（構成員） 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 黒川 淳司
委員 支部 英孝
委員 林 大輔
委員 須田 壽美江
委員 麓 美絵

（学校教育支援室）

教育部学校教育支援室長 中島 桂一
教育部学校教育支援室学校教育課長 川口 直也
教育部学校教育支援室学校教育課参事 浅木 義博
教育部学校教育支援室教育支援課長 清水 さおり
教育部学校教育支援室学校教育課学校教育係長 中山 雄太

（事務局）

教育部長 伊藤 忠信
教育部次長 佐藤 学
教育部総務課長 山崎 浩克
教育部総務課総務係長 河崎 真大
教育部総務課総務係主査 工藤 雅和

4 議題

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) 令和5年度教育施策及び予算に関する意見交換について
- (3) 小中一貫教育の推進状況について

三好市長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、令和4年第2回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>まず、本日の会議ですが、議題としましては3件ございまして、一つ目は全国学力・学習状況調査の結果について、二つ目は令和5年度教育施策及び予算に関する意見交換について、三つ目は小中一貫教育の推進状況についてを議論させていただきたいと思っております。</p> <p>皆様もご存知かもしれませんが、政府において11月10日に新型コロナウイルス感染症に関連いたしまして、都道府県において、第8波を想定した対応を進めてくださいとのことですが、道内においては、すでに11月9日時点で1日の感染者数が9,000人を超えておりますし、もう第8波に入っているのではないかと状況であります。新型コロナウイルス感染症に関連しましては、まだまだ不安要素もありますので本日の議題に入る前に、市内小中学校の感染状況について教育委員会の皆様と情報共有したうえで、本日の会議を開催したいと考えております。まずは、事務局から直近の市内小中学校の新型コロナウイルス感染症の感染状況について報告願います。</p>
川口学校教育課長	<p>市立小中学校における新型コロナウイルス感染症への対応状況について、ご説明いたします。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>1の学級閉鎖等の対応についてであります。はじめに、児童生徒が陽性になった場合は、学校へ連絡をもらうよう家庭に協力を依頼しており、連絡を受けた学校は市教委へ報告し、学級閉鎖等の対応を協議しております。</p> <p>休業措置の範囲につきましては、道教委の通知に基づき、令和4年度は、同一の学級で複数の陽性者が発生した場合は学級閉鎖、同一の学年で複数の学級が閉鎖になった場合は学年閉鎖、複数の学年が閉鎖になった場合は学校閉鎖としております。</p> <p>なお、8月24日以降は、同一の学級で複数の感染が確認された場合であっても、家庭内感染など学校外で感染したことが明らかな場合は、学級閉鎖等を行わないこととしています。</p> <p>また、学級閉鎖の期間は、陽性者の最終登校日の翌日から5日間です。</p> <p>次に、2の月別学校休業数及び児童生徒等陽性者数ですが、学級閉鎖等の休業措置について、月別に延べ件数を棒グラフで表したほか、学校把握分の児童生徒等の陽性者数を折れ線グラフとして、資料にまとめております。</p> <p>4月から10月の期間で、8月の陽性者数が一番多い状況にありますが、7月22日から8月16日までは夏休みであったことから、学校以外で感染が拡大したものと考えられます。</p> <p>なお、資料の記載はございませんが、11月の休業措置の状況につきましては、11月7日までの1週間で、学級閉鎖28学級、学年閉鎖2学年、学校閉鎖1校となっております。</p> <p>また、参考として、江別市及び全道の感染者数を月別に資料にまとめております。</p> <p>なお、10月分の江別市の感染者数に関しましては、全数届出見直しに伴い、公表対象に変更があったため、記載をバー表示としています。</p> <p>学校における感染症対策につきましては、第1回総合教育会議の際に、教職員のワクチン接種など、これまで取り組んできた対策をご説明しておりますが、今後につきましても、感染症対策を徹底し、感染拡大の防止と教育活動の継続に努めて参ります。</p> <p>また、学級閉鎖等の休業期間におけるICTを活用した学習支援に関しまして、教育情報化担当参事からご説明いたします。</p>
浅木学校教育課参事	<p>引き続き、資料はございませんが、学級閉鎖等の臨時休業期間におけるICTを活用した学習支援について、ご説明申し上げます。</p> <p>学級閉鎖等でも児童生徒の学びを継続させるため、ICTを活用したオンライン学習は有効な手段と考え、3月末にあらかじめ学校と家庭へ準備のための事前周知を行い、6月</p>

	<p>下旬からは、オンライン学習を積極的に実施するよう小中学校へ依頼してきたところで、小中学校では、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの授業や健康観察を中心としつつ、タブレット端末を活用した学習やデジタル制作などを実施しております。</p> <p>オンラインでの授業以外に行われているタブレット端末を活用した具体的な学習内容といたしましては、国語や英語での児童生徒用のデジタル教科書を活用した音読練習、社会の授業で学習した歴史の内容について、オリジナルの年表を作成する、体育の走り幅跳びでより遠くに跳ぶにはどうしたらよいか、動画を見てまとめることや教員が作成した問題、デジタルドリルの問題を解くなどしております。</p> <p>この他にも、デジタルとアナログのハイブリット授業として、ウェブ会議システムで教員から説明を行った後、児童生徒は家庭で図工や美術、書道などの制作を行い、作品が完成したら、タブレット端末のカメラで写し、画像と併せて出来栄や感想を添えて教員に送信、教員はそれに対しコメントを返信するといったことも行われております。</p> <p>対面用に準備していた授業をオンライン授業用に見直したり、児童生徒の集中力やインターネットの通信制限のある家庭に配慮して、オンライン授業に偏りすぎないように工夫したりと、教員の頑張りにより、学級閉鎖等の臨時休業期間においても児童生徒の学びが継続されるとともに、ウェブ会議システムを使用して、クラスの友達や教員とコミュニケーションが図れるようになっております。</p> <p>ICTの活用を進め、平常時はもとより、学級閉鎖等の緊急時にも児童生徒に充実した学習環境が提供できるよう、今後も学校及び教員の支援に努めてまいります。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から市内小中学校における新型コロナウイルスの感染状況と学級閉鎖等の際の学習状況について報告がありましたが、委員の皆様からご意見等はございませんか。</p>
麓委員	<p>先ほどの報告を受けての私の感想ですが、10月末頃から小学生の感染が急増して、学級閉鎖が相次いで、学芸発表会が延期になった学校もあると聞いております。江別市のホームページを見ますと6～12歳のワクチン接種率がとても低いことも、急増している理由の一つではないかと個人的に考えております。</p> <p>また、急増している地域を見ると、寒冷地での感染が多いので、寒さで換気が難しく、乾燥もしていることで、飛沫が飛びやすくなっていることも原因の一つと報道で聞きました。再度、基本の予防対策の徹底が大切なのかなと感じております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。子供のワクチン接種に関して、保護者等の関心が低いというのは、ワクチン接種に対して心配や慎重な対応になっていると思います。今回の感染拡大が報道されてから、少しずつですが子供たちのワクチン接種が増えてきておりますが、全般として、かなり慎重な対応となっております。</p> <p>そのほか何かございますか。</p> <p>よろしいでしょうか。(了)</p> <p>江別市としては、国や北海道の基準に基づき、学級閉鎖や学校閉鎖を適切に進めてきたということでございます。その際にも、オンラインを活用した学習を進めまして学びの保障に努めてきたとの報告をいただきました。</p> <p>このあと、今までと異なりますのは、ここ2年間で少なかったインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行の可能性なども言われており、非常に心配しております。インフルエンザも今までの新型コロナウイルス感染症対策と同様に手洗いの徹底、消毒、正しいマスクの着用、適度な換気などが有効でありますので、引き続き、学校現場においてしっかりと感染対策を講じながら教育活動をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、本題の議事に入りたいと思います。</p> <p>先ほども申し上げましたが、本日の議題は、全国学力・学習状況調査の結果について、令和5年度教育施策及び予算に関する意見交換について、そして小中一貫教育の推進状況についての3件でございます。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、さっそく議題に入りたいと思います。はじめに(1)全国学力・学習状況調査の結果についてを議題といたします。資料が配付されております</p>

川口学校教育課長	<p>ので、事務局から報告願います。</p> <p>令和4年度全国学力・学習状況調査の調査結果について、ご説明いたします。 それでは、資料別冊1の1ページをご覧ください。</p> <p>はじめに、全国学力・学習状況調査は、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、文部科学省が全国の小学校6年生及び中学校3年生を対象に、国語と算数・数学の教科に関して、毎年度実施している調査です。</p> <p>Iの調査の概要については、記載のとおりです。</p> <p>なお、教科に関して、3年に1度の調査になりますが、理科の調査を実施しております。</p> <p>次に、IIの結果の概要のうち、1の教科に関する結果の概要については、資料2をご覧ください。小・中学校における各教科の平均正答率について、全国、全道、江別市の数値を表にまとめております。令和4年度の傾向といたしましては、小学校、中学校ともに平均正答率が、北海道及び全国との比較で、すべての教科で全道・全国を上回っています。</p> <p>次に、別冊1の1ページにお戻りいただき、資料の下段、2の質問紙調査に関する結果の概要をご覧ください。</p> <p>授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。</p> <p>ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、ICTを活用した授業が積極的に行われています。</p> <p>昨年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、令和5年度から全面实施される小中一貫教育に向けた取組が進んでいます。</p> <p>2ページをご覧ください。</p> <p>Ⅲの各教科の結果については、2ページから7ページにかけて記載しております。</p> <p>教科ごとに、正答数の分布グラフ、江別市・北海道・全国の平均正答数と平均正答率及び学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率の表を記載しております。</p> <p>江別市の特徴的な傾向をご説明いたします。</p> <p>3ページ上段の小学校算数の正答数分布グラフをご覧ください。正答数と割合に関して、江別市は棒グラフ、北海道及び全国を折れ線グラフで表したものです。中間層に届いていない、いわゆる伸びしろ層の割合が、全国に比べ低いことがグラフで確認できます。</p> <p>このことは、教育委員会における学習サポート教員の派遣や特別支援教育支援員の配置といった人的支援を効果的に活用し、各学校において児童生徒一人ひとりに応じた、きめ細やかな指導・支援を行ってきたことによるものと考えております。</p> <p>また、他の教科においても同様の傾向が見られます。</p> <p>次に、8ページをご覧ください。</p> <p>Ⅳの質問紙調査の結果についてですが、1の児童・生徒質問紙は、児童生徒が生活習慣や学習習慣等について回答した結果であり、生活習慣など7項目について、特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組を四角で囲んだ部分に記載しております。</p> <p>次に、10ページをご覧ください。</p> <p>下段部分の2の学校質問紙は、学校の教育活動等について学校が回答した結果であり、学習規律など7項目について、学力向上等の取組の中から特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組等を四角で囲んだ部分に記載しています。</p> <p>なお、13ページから23ページは、児童・生徒質問紙と学校質問紙の項目について、抜粋したものになりますがグラフを掲載しており、全国平均よりも+5ポイント以上を太字、全国平均よりも-5ポイント以下を網掛けとしておりますので、ご参照ください。</p> <p>続きまして、24ページをご覧ください。</p> <p>江別市学校改善支援プランです。</p> <p>まず、上段の明らかになった課題としましては、主なものとしまして、一つ目に、全国学力・学習状況調査等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立による教育活動の質の向上のほか、ICTの効果的な活用等を図る必要があります。</p> <p>二つ目に、児童生徒質問紙の自己肯定感の設問において、自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばあると思うと回答した割合は、小学校6年生・中学校3年生とも</p>
----------	--

	<p>に、昨年度を上回りましたが、全国平均を若干下回っており、教育活動全体を通じて、一人ひとりの良さや可能性を見いだして、自己肯定感・自己有用感を高める教育を充実させる必要があります。</p> <p>三つ目に、義務教育9年間で児童生徒に育成したい力を明確にし、系統性を確保した指導と一貫性のある指導を確立するとともに、次年度に市内小中学校全校で導入する小中一貫教育に向けた取組を進めて行く必要があるとしております。</p> <p>資料の下段、左側は課題解決に向けた学校の取組であり、右側が学校に対する教育委員会の支援であります。</p> <p>以上です。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ただいま事務局から報告がありましたが、委員の皆様からご意見等はございませんか。</p>
<p>須田委員</p>	<p>感想を中心にお話させていただきます。</p> <p>江別市の小中学生は、今回の全国学力・学習状況調査の調査結果が、3教科とも全国平均を上回っており、とても優秀だと感じました。市の学習サポート事業やICTの活用などが子供たちへの支援につながっていると感ずし、これからますますの支援をお願いしたいと思います。</p> <p>調査結果の中で気になっていることですが、一つは、小学生の国語で学習指導要領の内容別正答率で書くことの区分が、唯一全国平均を下回っていました。書くことは、すぐに上達するには難しい課題だと思いますが、低学年のうちから家庭学習の中に毎日、何か一行でも書く習慣を身に付けていくことができないものかなと思いました。そして、書くことは、読むことの学力にもつながっていくと思います。</p> <p>次に、中学校の国語では、書くことについて全国平均を上回っていますが、読むことについては、全国平均を下回っています。やはり、書くこと読むことというのは、どの教科にも通じる問題だと思いますので、書くこと読むことを伸ばせるよう基礎学力をつけられたらと思います。</p> <p>そのほかでは、中学校の数学では、数と式の区分で全国平均を下回っていることが気になりました。数と式というのは、基礎学力のところだと思います。この部分が改善されると、0問回答が減るのかなと思いました。中学校の数学での成績分布のグラフがほかの教科と比べて、いびつな形であることも少し気になることです。</p> <p>質問紙調査の結果については、資料8ページの(2)学習習慣の①のところで、小学生は自分で計画を立てて勉強している、どちらかといえばしていると答えた割合が全国平均より大きく上回りましたが、中学校3年生への同じ質問の割合が、全国平均より下回っていることが気になりました。</p> <p>また②の学校の授業以外に1時間以上勉強する割合についても同様に、中学校3年生の割合が全国平均より下回っていて、小学生より中学生の方が、勉強しなければならないところですが、小学校6年生の調査結果の割合よりも少なく、全国平均よりも下回っていて、それでいて昨年の比較よりも下回っているというのは、少し改善の余地があるのではと思います。</p> <p>しかし、平日にテレビゲームやパソコン、スマートフォンを2時間以上している割合については、中学校3年生に関しては、少し改善されていて、小学校6年生で全国平均を少し上回ってしまう結果になっているにも関わらず、学習時間を確保しているという結果に、ちょっと変わった結果になっていると感じました。</p> <p>そのほかには、私が毎年気になっている(3)自己肯定感は、小学校6年生も中学校3年生も少しずつ調査結果が上向きになっているので良い傾向と思いますが、全国平均の割合まではもう少し足りないので、一人ひとりの良さや可能性を見つけて伝えたり、子供たちの成就感など感じられる場をたくさん用意することで、子供たちが自分たちの良いところがあると思えるようになってほしいなと思いました。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございます。そのほか、何かございますか。</p>
<p>林委員</p>	<p>資料2にある結果を拝見いたしました。先ほど、須田委員がお話したと重複いたしますけれど、全国学力・学習状況調査の結果について小学校6年生は、全国、全道の結果</p>

	<p>より大きく上回っており、特に理科の成績が良いことが見て取れます。これは、江別市が早くからICT教育を導入した結果かと思えます。特に理科の教科は、タブレット端末を活用すると非常に授業自体が分かりやすい側面があると思えますので、その成果が出てきているのかなと思えます。中学校3年生も小学校6年生ほどではありませんが、全国、全道の結果を上回っており、特に全国、全道との差を前年対比で見ると中学校3年生は、昨年は少しマイナスであった数字が、今年はプラスになったことから、この結果を合わせると大きくプラスに転じたことがこの調査から見て取れます。ただ、小学校6年生と比べると平均を上回る部分が少ないということは、8ページで須田委員が言われていたように、テレビゲームやスマートフォンに時間を費やしている部分が、前年対比でも大きくなっているところが課題なのかなと思えます。これは、学校だけで改善できるものではないと思えますので、家庭との連携をより深めていくことが必要になってくると思えます。</p> <p>そのほかでは、10ページにある質問調査紙の結果についてですが、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うという質問については、中学校3年生であれば、これ以上、上がりようがないところまできており、すばらしい内容だと思えますし、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う割合についても、非常に高い割合でいじめを許さないということが、江別市の子供たちに根付いてきているのかなという部分が、今回の調査で見て取れます。このように子供たちの良い部分は、続けていってもらいたいと思えます。</p> <p>最後に、江別市学校改善支援プランですが、毎年、同じ調査をしており、課題解決といった部分で教育委員会と校長や教頭との共有化は、かなりできていると思えます。しかし、学校に勤めている他の教職員にも同じ課題が共有されているのかということが、この支援プランだけだと見えなかったものですから、今後、学校内の職員の間で同じ課題が共有化されているか、委員会のほうで把握されるとより課題解決の道が明確になってくると思えます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。いろいろとご意見がありました。私が、一つ気になることは、江別市で本格的にICT機器を導入したのは、わずか数年前のことですが、今回の調査結果から子供たちの書くことの能力が、全国平均を下回っていたという話について、須田委員からお話がありました。ICT機器の導入が進むと、今までの文字をノートに書くといったアナログな部分からデジタル化が進み、自ら書く習慣がどんどん少なくなることに対し、心配な気持ちもしております。できましたら、全体を通して黒川教育長から今回の分析結果を踏まえたお考えなどについて、ご見解をお聞かせいただきたいと思えます。</p>
黒川教育長	<p>まずは、資料2にありますように、江別市の子供たちが、今回、小学校、中学校ともに、すべての教科で全国・全道平均を上回る結果だったということは、教育委員会といたしましては、素直に嬉しく思っているところでございます。様々な要因があると思えますが、私は、いろいろな市町村の教員を経験した中で、やはり江別市の子供たちの授業に臨む集中力が違うと感じております。小学校の低学年から授業に集中できる子供たちというのは、素晴らしいと思えますし、学校の指導の成果のほか、近隣の町に比べても家庭学習の割合が高いこと、つまり家庭の理解をしっかりと得ていることに要因があると思えます。</p> <p>また、先ほど林委員からのお話にもありましたが、江別市は、かなり早くから電子黒板を導入したり、様々なICT機器を活用して、子供たちに分かりやすい授業を提供しようと頑張ってきたことが、成果につながっていると思っております。</p> <p>さらには、特別支援学級のほか、通常学級ですが、特別な支援を必要とする子がどのクラスにもいます。その中で江別市は、特別支援学級への支援員だけではなく、通常学級にいる支援の必要な子供にも、支援員を配置しております。そのほかに学習支援員、学習ボランティアなど様々な形で頑張る学校の先生方を応援する体制を取っているということが、大きく授業の質を高め、ひいては、集中できる子供たちにつながっていると私は思います。</p> <p>一方、先ほど委員の皆様からは、中学生の学習時間が少なかったり、ゲームの時間が少し多いことのほか、子供たちの自己肯定感について気になるところがあるとの発言がありました。全国的に見て大都市になればなるほど、自己肯定感は下がる傾向がありまして、江別市の校長会でも、自己肯定感を高めるためにどうしたら良いかという論議がされております。今回、市内で大きく自己肯定感が上がった学校では、地域の方や幼稚園児との交</p>

流を進めた学校だったり、掃除当番だから仕方がなく掃除をするのではなく、人のために自分が役に立つということが素晴らしいということを学校全体で指導したところ、人のために役立つことがすごく気持ちのいいことだということを子供たちが感じるようになり、昨年比で4割も自己肯定感が伸びた学校もありました。そのような事例を活かしながら、一つひとつの課題に対応しなければならないと思います。

先ほど市長がおっしゃったICT機器の活用が進むと、書く力が弱くなるということは、大人でも同じことが言えると思います。パソコンを使い、文章を作成していると漢字を忘れてしまうこともあると思います。ですから、全面的にデジタル教科書を利用したり、書くことはすべてパソコンが良いということは、いかがなものかという考え方は学校現場にも根強くあります。やはり、須田委員がおっしゃるように、一行ずつでも書くという習慣をつけていくことが大事だという考えが、教育現場の中でも大きいと思います。

最後に、資料2に記載のあるとおり、すべての教科で全国・全道平均を上回っておりますということは事実であります。そのことから、学校によっては、「今年の全国学力・学習状況調査の結果は、国語は、全国平均以上です。算数は、全国平均以上です。理科は、全国平均以上です。以上。」というような家庭へのお便りがあり、そのようなお便りを見ると、先生の学校は、全ての小学6年生が全国平均を超えたのですかと言いたくなってしまいます。平均ということは、その平均値に届いていない子供が、実際には何人もいるということをよく理解してほしいと思います。今回、江別市はすべての教科で小学校も中学校も全国・全道平均以上という結果で、これは間違いない事実ですが、あくまでも平均をした結果であります。つまり、学校によっては、この平均を下回っている学校も何校もありますし、全国・全道平均を上回っている学校の中にも、全国・全道平均よりずっと下の子供もいます。そのことを忘れてはいけず私は思っており、全国・全道平均を超えたからいいということではなく、どの子供も伸ばしていくことが必要で、これからの先行き不透明な時代にも対応できる力、たとえば学力点がそう簡単に上がらない子供でも、粘り強く頑張って乗り越えていく力を一人ひとりにつけていくことと同時に、いじめは絶対許してはいけないことや人の役に立つ人間になりたいなど、人としての良き意思や心とかを含めた知性として、学力を一人ひとりにつけていくように引き続き、頑張っていかなければならないと思っております。

以上です。

三好市長

ありがとうございました。

教育長をはじめ委員の皆様からは、総じて江別市の子供たちの学力に関連したご意見がございました。これまでの取組における高い実績が、一つの評価として表れているのではないかとございまして。その一つに、江別市の子供たちの学習態度というのが、管内の中でも非常に高い評価であり、それが、子供たちの集中力にもつながり、デジタル化の取組につきましても、率先して取り組んでいる成果の積み重ねが、今回の学力の結果につながっていることというお話をいただきました。学力の向上については、まだまだ終わりがございませんので、一人も落ちこぼれないよう子供たちを救っていくことが、更なる平均の上昇につながると思いますので、引き続き、教育環境の充実に特段の配慮をお願い申し上げたいと思います。

以上で、本件を終結いたします。

次に、(2) 令和5年度教育施策及び予算に関する意見交換についてを議題といたします。

去る10月11日、新年度に向けた予算編成方針説明会を開催いたしまして、皆様のお手元にある別冊2を使い、私から新年度予算編成にあたっての職員への指示事項を申し上げたところであります。

私からは、令和5年度はいわゆる骨格予算となるものの、第6次江別市総合計画における10か年計画の最終年次を迎えることから、計画に基づく事業展開、人口問題対策の仕上げる年であることに加え、国の令和5年度概算要求の計画的な重点投資5分野である人、科学技術・イノベーション、スタートアップ、グリーン、デジタルを十分意識すること、また各政策に掲げた取組の進捗状況や目標の達成状況について検証を行ったうえで、必要な予算要求を行うことのほか、扶助費である社会保障関連経費の増加や新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい予算編成となることから、既存事務事業の大胆な見直

佐藤教育部次長	<p>しや特定財源の獲得等により、一般財源の確保に努めることを職員に指示したところでございます。</p> <p>具体的な内容については、先日の定例教育委員会で教育部長から説明あったと聞いておりますが、本日は、来年度の教育施策及び予算に関する意見交換ということで、皆様と議論を深めたいと思います。議題（２）は、この別冊の他に事務局から資料として令和５年度に実施予定の主な学校教育関連施策に関する資料を用意いただきましたので、事務局から説明願います。</p> <p>議題（２）令和５年度教育施策及び予算に関する意見交換についてご説明いたします。資料３をご覧ください。</p> <p>令和５年度に実施予定の主な学校教育関連施策について、当市の教育の更なる充実に向けた事業、取組として５点挙げております。</p> <p>順に説明いたします。</p> <p>１点目の学校施設の改修・修繕については、学校現場から毎年強い要望をいただいております。特にトイレ洋式化や多目的トイレの設置は、多くの学校から早期の整備を求められているところです。加えて、屋根や外壁の改修が必要な校舎もあり、教育委員会としては、教育環境確保のため、国の補助金等を活用し、計画的に施設整備を進めていきたいと考えております。</p> <p>次に、２点目の部活動指導員の配置については、部活動の地域移行について国で提言書がまとめられる中、市内中学校に部活動指導員を新たに配置し、生徒たちがスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保したいと考えております。</p> <p>あわせて、将来の地域移行を含め、当市に適した部活動のあり方などを協議する場を設置したいと考えております。</p> <p>３点目は、ＡＩドリルの導入についてです。今年度、小学校低学年へのタブレット端末の整備が終わり、小中学校全学年で１人１台端末が整備されました。また、１０月からは全校で家庭への端末持ち帰りが開始となりましたが、教員からは、学校や家庭などの場所を問わず、児童生徒が習熟度にあった問題に効果的に取り組むことができるＡＩドリルの導入が必要との声があり、現在、導入に向けた検討を進めるため、各種業者の協力を得て、無償トライアルを実施しているところです。</p> <p>４点目の不登校・登校しぶりの児童生徒のための支援員の配置、５点目のハイパーＱＵの実施学年と回数が増についてですが、増加が続いております不登校児童生徒への対応や、いじめの未然防止など、これらの対策が急務となっているところであります。</p> <p>まず、不登校児童生徒の居場所確保や学習支援を行う支援室は、現在、一部の学校での設置となっておりますが、担当教員の負担が大きいとの声が届いており、今後、すべての小中学校への設置を進めるうえで、人的支援を行う必要があることから、市独自の施策として、各校に支援員の配置を検討しているものです。</p> <p>次に、ハイパーＱＵについてですが、現在、中学１年生を対象に年１回実施しているところを、実施学年に小学校１学年追加し、さらに、筆記による実施をタブレット端末に変更したうえで、実施回数を２回に増やすことで、いじめや不登校防止につながる取組の強化を図りたいと考えております。</p> <p>なお、説明いたしました５つの施策については、学校現場の声を反映することが重要であることから、校長会や教育研究会、ＰＴＡ連合会など６つの機関で構成する江別市教育予算の研修協議会から例年出されております、教育予算要望書を踏まえたものとなっております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま、事務局から資料について説明がありましたが、来年度の予算につきまして、皆様からご発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。</p>
支部委員	<p>私からは、今、学校施設の改修・修繕のお話がありましたが、ここ数年来で言われてきております校舎の老朽化について話させていただきたいと思います。一部の学校では、建設後４０年以上経っている校舎があり、４０年経っているから駄目との話ではありませんが、色々と修繕をしながら使用していると思われれます。</p>

	<p>ただ、一部の古い校舎では、冬場に行ってみると、とても寒いと感じる場所が実際にあると思います。子供たちは色々な学校を比較するってことはありませんが、少し差がありすぎるかなと思います。そのため、計画的な改修・修繕を進めて行く必要があるのではないかと思います。同じような環境で同じような教育を受けさせてあげたいと思いました。</p> <p>それと、トイレのことですが、洋式化の進んでいない学校が未だにありまして、子供たちに聞いても、改修の進んでないトイレは、暗くて行きたくないなどの意見も聞いたことがあります。トイレにつきましても、なるべく他の学校と差が出ないようにバランスよく、整備していただければと思います。また、多目的トイレにつきましても、児童生徒で色々な障がいを持たれたりする場合がありますので、多目的トイレの設置についても、未設置校での設置が必要かと思います。</p> <p>最後に、暖房設備につきましても、昔のように石炭ストーブはありませんが、学校によっては、かなり差があるように感じました。やはり暖かい校舎というのは、新しい校舎で断熱がよく、設備も充実している印象があります。40年以上経った校舎では、断熱等に差があるのかなと思います。</p> <p>予算のこともありますが、全体的に計画的に行っていく必要があると感じております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。ただいまの意見に事務局から何か説明ございますか。</p>
山崎総務課長	<p>先ほど、いただいた意見についてですが、今のお話の中で、寒さの関係やトイレの関係のお話をいただきました。教育部総務課といたしましては、過去に全学校を調査しており、その後、毎年その状態がどのように推移しているかを確認しております。教育部総務課としては、その状況から2つの考えに基づいて、対応を進めて行くことを考えております。</p> <p>一つ目は、今、支部委員からお話のあった建築後何十年経過して、施設全体に不具合を多く生じている学校につきましては、校舎をリフォームする長寿命化改修と呼ばれているものですが、この長寿命化改修を進めて参りたいと考えております。これによりまして、構造自体は大きく変わるものではございませんが、内部や外部につきましては、いずれも新築と同じような状況にできればと考えております。このことを早期に着手出来ればとう方針を立てていくところでございます。</p> <p>二つ目ですが、学校の部分的な改修につきましては、支部委員のおっしゃる通り、トイレの優先度が高いという方針を持っております。現在、多目的トイレの未設置校は、5校ございます。今年度、冬休みを利用して、2校で改修工事を行う予定でございます。そうしますと、残り3校になりますので、引き続き、未設置校0校を目指しまして進めていく考えでございます。また、トイレの洋式化ですが、こちらにつきましても、洋式化率が50%に満たない学校が9校ございます。この冬休みに2校改修の予定でして、それでもまだ7校ございますので、順次、改修を進めまして、使いやすさや衛生環境の改善につなげていきたいと考えております。</p> <p>当然ながら、先ほどお話いただきました暖房等、各学校の現状に応じまして色々な改修・修繕の対策を講じて参りますが、大きな方針としては、今、お話しいたしました2つの方針を持って、教育部総務課として対応して参りたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>はい。わかりました。そのほかございませんでしょうか。</p>
麓委員	<p>今の学校施設の改修・修繕についてになるのかなと思いますが、私の周りの子供たちや保護者の方から聞く話の中で、子供たちの靴箱の話があります。</p> <p>昔に比べて、児童生徒数が減っているので、空いている靴箱は多いのですが、一つひとつの靴箱の大きさは昔のままで、一つの靴箱の中に仕切りがあり、上に上靴、下に外靴というスタイルですが、子供たちの体格も大きくなっていて、それに伴い、上靴も大きくなっていることから、夏場に学校に行った時に見られたのが、上靴が下に落ちている場合や無理やり横に入れていた状況です。冬になるともっと大変になっており、長靴が自分の靴箱に入らない子供が高学年になると多く、つま先だけひっかけて靴箱に入れており、そうするとかかとの部分が靴箱からはみ出して、下の段の子供の靴の中に水滴が落ちて、</p>

	<p>帰るときに自分たちの靴の中を拭いてから帰ってくるという話を聞いております。 なかなか難しい話とは、わかっておりますが、そのような状況があることは、知っていただければと思いました。</p>
三好市長	靴箱はどうなのでしょう。
山崎総務課長	<p>麓委員のお話にありましたとおり、学校は昔から変わらず同じ靴箱ですが、子供たちの体格が時代とともに大きくなり、足のサイズも大きくなったことにより、靴も丈の長い靴を通学に使用するなどの変化が起きているのだらうと思います。それに対して学校側の靴箱の対応が、間に合っていないというのが現状であると思います。本日いただきましたご意見を参考にさせていただき、教育部総務課にて今後の取組の一つとして考えさせていただきたいと思います。</p>
三好市長	<p>今の冬場における靴箱の話についてですが、水滴によって凍ることはないかもしれませんが、かなり冷たい思いをすと思います。下駄箱という概念ではなく、靴箱ですので、実態に合うような形に変えていかなければならないと思いますので、検討してみてください。</p>
山崎総務課長	はい、わかりました。
三好市長	そのほか、ございませんでしょうか。
林委員	<p>部活動の指導員配置についてですが、希望の部活に入れない中学生もいるのかと思いますが、それによって札幌市内の少年団ですとか、スクールに通っている子供もやはり多いと聞きます。通える子供は良いのかもしれませんが、経済的な理由で、好きな部活ができないという子供もいますので、学びたいけれども学べない子供たちがいる現状は、放置できないかなと思います。すぐに学校へすべての部活動の指導員を配置することは、難しいと思いますが、江別は開かれた学校を目指しておりますし、コミュニティ・スクールも充実しているので、地域とのつながりを活用しながら、部活動の指導員配置について検討することに加えて、テスト的な形でも良いと思いますので、モデル校で実施してみるといった進め方をやっていったほうが、江別市としての経験値を積むことができると思います。また、教職員の働き方改革にもつながると思います。</p> <p>部活動の指導員配置を実施するとなれば、費用等も掛かる話ではありますが、子供たちのためにも、学校で働く教職員のためにもなると思いますので、実験的にでも進めていただきたいと思います。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。今ほどの働き方改革から始まった部活動の指導員配置について全国的に色々な取組がされておりますが、現在、江別市での検討については、どのような進めておりますか。</p>
川口学校教育課長	<p>現在、関係団体と江別市でどのような形で子供たちが継続して、スポーツや文化に親しめる環境を維持できるかを協議しております。</p>
三好市長	その関係団体というのは、スポーツ団体や文化協会などと協議しているのでしょうか。
川口学校教育課長	はい、江別市にあるスポーツ協会や文化協会と協議をしております。
三好市長	<p>わかりました。学校の部活動というと、競技等に熟知していない先生がその競技の指導をしなければならないということもあると聞いておりますので、そういう観点からも、競技について熟知した指導者が、指導を受けることが本来だと思いますが、片や教育の現場として、関係団体の指導者が指導することがふさわしいかという問題もあると思いますので、慎重に検討していただき、有効な方法を議論していただきたいと思います。</p>

須田委員	<p>そのほか、ございませんでしょうか。</p> <p>今の部活動の問題ですが、中学校で活動している部活動の種類が減ってきて、少年団やクラブ活動で受け入れてもらえないかといった話もあります。仮に、少年団やクラブ活動で受け入れることが若干名できたとしても、やはり子供たちを見る指導員の問題があると思います。そのほか、私が実施しているバドミントンの団体でも、週3回活動を行いたいところですが、実際は、練習場所の関係から、児童生徒が実際に参加できるのは、2回になったりすることや、利用している学校で11月、12月と体育館周辺の工事があることから体育館の使用ができなくなりますので、練習場所や練習時間の問題もあることをお伝えしたいと思います。</p>
三好市長	<p>部活動の指導員配置については、全国的にも課題が山積しておりますので、導入に向けての対応を検討していただき、問題解決に結びつけていかなければならないと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>そのほか、ございませんでしょうか。</p>
麓委員	<p>不登校と登校しぶりの児童生徒のための支援員の配置についてですが、現状として辛うじてどうか学校に登校できている子供たちには、児童会室や会議室などその日の空き教室で、授業に入っていない先生やあるいは教頭先生が交代で様子を見ながら、プリント学習などの指導にあたっていると聞いております。気持ちが不安定な子供には、できれば同じ先生が、同じ場所で自分を受け入れてくれるといった安定した環境を整えてあげることが大切だと考えますので、ぜひ、各校へ専門の指導員配置を検討していただけたらと思います。</p> <p>また、A Iドリルの導入についてですが、私個人の感想になりますが、つい先日、中学校の参観日で、A Iドリルを実際に体験させていただきました。体験してみると、選択問題だけではなく、筆記問題もあり、回答や正解率が各教科の担当の先生に直接つながっているという話を聞きました。回答や正解率の情報がすぐにクラスの担当の先生が把握し、苦手な分野がすぐにわかるという説明を聞き、とてもすばらしいシステムだと感じましたので、来年度以降も、A Iドリルが使用できると良いと思いました。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。ただいまの発言に関連して何かございますか。</p>
浅木学校教育課参事	<p>先ほど、ご説明させていただきましたA Iドリルについてですが、現在、無償トライアルを事業者にご協力いただき、進めているところであります。色々と業者に確認をしていく中で、A Iドリルの導入にあたっては、比較的導入しやすい値段のものもあれば、高額なものも色々ある状況でございます。金額だけではなく、現場の先生方の声ですとか、利用状況についても、業者に確認すればすぐにわかりますので、様々な条件を踏まえまして、検討を進めていきたいと考えております。</p>
三好市長	<p>そのほか、何かありますか。</p>
清水教育支援課長	<p>不登校の支援員についてですが、令和3年度末の不登校の児童生徒数が158人だったのですが、その内、小学生は75人おりました。ただ、遅刻や早退が多いとか、登校しても保健室など別室で過ごすことが多い児童の人数は、先ほどお話しした不登校の児童数75人の倍の150人いる状況でございます。</p> <p>それゆえ、小学校に限らず、中学校においても登校しぶりの傾向のある子供たちを加えると、非常にたくさんの児童生徒の支援を各学校が頑張っている状況でございます。そのような中、今年度に支援室を設置した学校からは、支援室でのスタッフが足りないとのことで、週に1回でもいいので、支援室で働くスタッフを派遣していただけると助かるという声も聞いております。今後、少しでも学校への人的支援を行うことについて、教育支援課としても検討していきたいと考えております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。そのほか、ございませんでしょうか。</p>

林委員	<p>ハイパーQ Uについてですが、来年度から小学校でも実施することや実施回数を増やすことについて検討しているとのことで、前回の総合教育会議の時に、いじめ防止に有効な取組の一つであると聞いておりましたので、非常に良いことだと思います。段階的に実施回数を増やしたりですとか、実施学年の幅を広げることができれば、より良くなると思いますので、今後は、実施回数を増やしたことによる効果測定なども、来年度以降の総合教育会議で聞かせていただければと思います。</p>
三好市長	<p>ハイパーQ Uは、今、林委員からお話がありましたが、次年度以降の予定があれば、お話を聞かせていただければと思います。</p>
清水教育支援課長	<p>現在は、中学校1年生を対象に紙ベースの調査票で年1回実施しておりますが、それを来年度は、小学校の1学年で追加を考えております。</p> <p>現在、検討段階ですが、ほとんどの小学校では、2年ごとにクラス替えがございますので、例えば、5年生のクラス替えのタイミングでハイパーQ Uを実施し、年に2回タブレット端末を活用して実施することを検討しております。タブレット端末を活用することは、結果がすぐに出ることから学校の先生方の負担を軽減するだけでなく、クラスの状況というのは、1か月もするとかなり変わってしまいますので、その時の状況がすぐにわかるということからも、タブレット端末での実施は、非常に有効ではないかと思っております。</p> <p>実施時期としては、年度始めの学級編制が終わった後すぐに、ハイパーQ Uの検査を一度実施し、それを先生方の学級運営に役立てていただき、その後、年度の後半でもう一度、ハイパーQ Uを行うことで、その違いからどのくらい学級運営に役にたったなどの効果を検証することができればと考えております。</p> <p>本来であれば、全学年でのハイパーQ Uの導入が理想ではありますが、実施学年につきましては、引き続き、検討をおこなっていかねばならないと思います。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。そのほか、ございませんでしょうか。</p>
麓委員	<p>今のハイパーQ Uのお話で、次に実施予定の学年が小学校5年生とのお話でしたが、先日の講演会で、小学生の学年の中で、一番いじめを受けたと感じている学年がどの学年かという話を聞く機会がありました。その話を聞いて、私自身も驚いてしまったのですが、一番多い学年は、小学校2年生とのことでした。幼稚園や保育園から小学校に期待を持って、実際に過ごしてみて、思っていたこととの違いだったり、つらいことがあったりと感じるのは、小学校2年生であるという調査結果を聞きまして、その話を踏まえて、低年齢からの実施についても検討していただけたらと思いました。</p>
三好市長	<p>そのほか、ございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。(了)</p> <p>委員の皆様から数多くのお考えをお聞かせいただき、ありがとうございます。</p> <p>本日は、令和5年度の予算に関する意見交換ということで、最後に、黒川教育長いかがでしょうか。</p>
黒川教育長	<p>いずれも、昨年に予算として、実現できなかったものでございますので、どれかだけを補足ということもできず、全部、大切であり、お願いしたいことではありますが、予算の関係もあることですから、すべてがかなうものではないと想像しつつ、各委員からも教育部からも是非、今、お話にあった施策について江別の子供たちのために、なんとか実施できたらというお願いでございます。江別市の方針の中でいうと、A Iドリルが、まさにデジタルに当たると思います。</p> <p>eラーニングやデジタルドリルという学び方は、もう十数年前からありますが、このA Iドリルというは、体験されると驚く方がほとんどだと思います。ただ正解や不正解が分かるだけではなく、A I、人工知能が何を判断するかということ、この子は、この種類の問題が弱いとか、不得意であるなどを判断して、レコメンド機能といいますが、不得意である問題が次々に出題されるようになり、その問題の間違い方によって、その後に出題される問題も変わってきます。もっと前に戻っての基礎問題を解く必要があると判断をして</p>

三好市長	<p>くれるので、私はわざと間違えながらやってみましたが、とても驚きました。このA Iドリルは、教員並みの問題の出し方をすると、私は感じました。今の時代、A Iドリルが判断をして、できる時代になったと考え、ただ正解、不正解が分かるデジタルドリルとは訳が違うので、A Iドリルをもし導入できたら、ただでさえ学力の高い江別の子供たちの力は、より一層、伸びるだろうと感じております。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>来年度の予算でございますので、数多くの事業の中から、優先順位を決め、どのように政策していくのか、十分、検討していきたいと思いますが、私としても、様々な政策を進める中で、教育施策は重要であることから、本日いただいた意見を踏まえ、予算編成を進めて参りたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>以上で、本件を終結いたします。</p> <p>次に、(3)小中一貫教育の導入に係る取組状況についてを議題といたします。</p> <p>資料を配付しておりますので、事務局から報告願います。</p>
川口学校教育課長	<p>小中一貫教育の導入に係る取組状況について、ご説明いたします。</p> <p>資料4をご覧ください。</p> <p>概要について、資料にまとめております。</p> <p>はじめに、江別市の小中一貫教育は、小学校と中学校が学習指導や生徒指導の課題や情報を共有し、義務教育9年間において、次のとおり指導を行うことで、目指す子ども像の実現を図ります。</p> <p>1の江別市が目指す小中一貫教育についてですが、(1)一貫した指導は、学習規律や生活規律を、中学校区において、ある程度揃えた指導を行います。(2)系統的な指導は、発達段階や実態を踏まえて作成した教育課程に基づく指導を行います。具体的には、小学校と中学校のつながりを意識して授業を行っていきます。(3)相乗的・補完的な指導は、一貫した指導・系統的な指導の効果を高め、補完するものとして、中学校登校や乗り入れ授業等を実施していきます。</p> <p>次に、2の期待される主な効果ですが、先進地の事例等から、制度を導入することにより、資料に記載の効果がでてくるものと期待しております。</p> <p>次に、3のスケジュールですが、令和2年度に、江別市小中一貫教育基本方針を策定しており、基本方針に沿って、制度導入に向けた取組を進めてきております。令和3年度につきましては、リーフレットの配布による制度周知、教科系統表の作成のほか、各校の担当者による全体会議を開催しました。令和4年度は、モデル校区であった江別第二中学校区で先行して制度を導入し、令和5年度に市内全小中学校で制度を導入するスケジュールとしています。</p> <p>裏面をご覧ください。</p> <p>次に、4の令和4年度取組についてですが、(1)中学校区・学校の取組の①江別第二中学校区では、令和3年度に、地域の特色等を踏まえた中学校区の目指す子ども像の設定・共有を終えており、令和4年度は、推進会議や合同研修会の開催、中学校登校や部活動体験等の実施、学力調査結果等を反映した系統表の作成、学校だより等による制度周知に取り組んでおります。</p> <p>次に、②その他の7中学校区では、会議や研修会の開催のほか、中学校区の目指す子ども像の設定・共有を行っており、その他、資料に記載の取組についても、モデル校区の取組を参考としながら、中学校登校など、各中学校区で工夫しながら、様々な取組を進めております。</p> <p>次に、(2)市教委の取組では、広報えべつの特集記事や通信の発行のほか、PTA連合会や自治会連絡協議会の会議に出向き、制度の説明を行うなどの制度・取組の周知、小学校へ中学校の教科書、中学校へ小学校の教科書を研究用として整備、各校の担当者による全体会議の開催、学校訪問等による各学校への指導・助言に取り組んでおります。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から報告がありましたが、委員の皆様からご意見等はございませんか。</p>

<p>須田委員</p>	<p>いよいよ、来年度から江別市で小中一貫教育が全校で始まりますが、現在、発行されている広報紙の「つなぎ つむぐ」で、各中学校区での取組を読ませていただいております。どの学校も順調に進んでいると感じました。現在、小学校6年生が、中学校へ体験登校した感想を見ると、早く中学校に行きたいとか、部活動が楽しみだとか、各教科で先生が変わるとか、英語がすごく難しそうだけど、頑張るといった感想を見ると、どれも中学生になることをすごく楽しみにしている様子が分かり、中1ギャップと呼ばれるものがなく、順調に中学校生活を送ることができるようになるのではと、安心感を持ちました。中学校卒業時の子供たちが、将来の夢を持てるように育てていってくださることを願っています。</p> <p>その中で、一つ気がかりになることは、学校選択制で、校区外の中学校に進む子供たちのことです。学校選択制も江別市の特徴で、とても良い取組とっておりますので、学校選択制を利用して、校区外の中学校へ行く子供たちへのバックアップをしていただければと思います。</p> <p>義務教育の9年間を一貫した教育で、継続的な指導ができれば、ますます江別の子供たちの学力も向上するのではないかと、期待しております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほか、ございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。(了)</p> <p>いよいよ、来年度から小中一貫教育が全市的にスタートいたしますが、今まで、不登校やいじめに中1ギャップの影響が大きく影響しているのではないかとということで、その中1ギャップの解消に向けて、この小中一貫教育が一つの処方箋になるのではと、江別市では、導入を検討してまいりました。小学校と中学校の先生と子供たちが一緒に連携できれば、結果はいい方向に結び付くのではと、期待しておりますが、最後に黒川教育長いかがでしょうか。</p>
<p>黒川教育長</p>	<p>はい、市長のおっしゃるとおりだと思います。</p> <p>市内の各学校の先生方が、かなり意欲的に進めてくれるように変わってきていると、私は実感しております。去年、一昨年の時点では、本気で取り組んでいなかった先生方が、今年に入り、力を入れて取り組んでいると感じております。</p> <p>例えば、全国の学校での取組の紹介を、私が直接、話をしたり、教育部を通じて伝えてもらっていますが、この間、たぶん全国で見てもどこもやっていない取組ではないかと驚いた取組があります。それは、一つの中学校区の先生同士が、全校研究発表会、指導主事訪問を相互訪問しておりました。基本、指導主事が来る時の授業は、その学校だけというのは、日本中で常識的に行われております。ところが、例えば、中央小学校に指導主事が訪問の時に中央中学校や対雁小学校の先生方も数名来て、本日の授業は、こうだったとか、こういう子供を育てようと、このような取組をしたのであれば、こうしたほうが良いのでは、と意見交換を一緒に行っておりました。これは、恐らく石狩管内でも初の取組だと思います。一つの中学校区の指導主事訪問で、一緒に議論を先生方の中から自発的に始めているというのは、中学校区での目指す子ども像への思いが、先生方から自然発生的に出ていることに、すごくうれしく思っているところです。</p> <p>それから、ちょっと話は別ですが、江別市が小中一貫教育を本格的にやりましようと思ったのは、平成30年だと思います。その後、方針が決まって、全市的に小中一貫教育のスタートが令和5年ということで、この準備に5年くらいかかっております。これを管内で、最初に小中一貫教育を決めたのは、当別町です。当別町は、平成27年に4校の小中一貫教育を進めよう決めまして、平成29年から小中一貫教育を始めました。そして、令和4年、長年の夢であった義務教育学校を開校いたしました。</p> <p>とうべつ学園という義務教育学校ですが、先月、江別市の教育部の職員と視察することができました。視察した感想ですが、まずは、施設の立派さに驚きました。</p> <p>例えば、教室の中には、ロッカーや衣服をかけることなく、教室の外にありました。そのほか、小学校1年生から使用する机に関しても、タブレットを使用することから大きな机でありました。廊下にはワークスペースがあり、ゆったりしておりました。この施設ができるのに、どのくらいのお金がかかるのだろうと思うくらいの義務教育学校だったのです。</p>

	<p>私が、何を申し上げたいかというと、当別町は学力向上を目的に小中一貫教育の導入を進めた市町村の一つですが、この平成29年から小中一貫教育をスタートしてから、ぐんぐんと学力が上がリ、昨年度は、全教科で全国以上まで学力が上がりました。この小中一貫教育で、小学校と中学校の先生が、お互いに授業を交換したりしながら、児童生徒の交流も深めることで、子供たちが変わっていき先生方も実感することで、良い循環が生まれたのだと思います。そこが小中一貫教育の大きな狙いではないかと思ひます。</p> <p>江別市は、令和5年度から小中一貫教育がスタートしますが、先生方が頑張った分、子供たちに還元される、そして、先生方も実感するといった好循環につながるようなスタートに向けて準備を進めたいと思ひます。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>小中一貫教育は、教育現場だけが努力してもできるものではなく、子供たちはもちろん、保護者や地域と一緒に進める必要があると思ひます。私としても、令和5年度にすべての市立小中学校で円滑に制度を導入できるよう、制度の周知及び各学校への支援など教育委員会が中心となって引き続き、取り組んでいただきたいと思ひております。当別町のように環境の良さから学力が向上するというお話もありましたが、江別市はそのような施設ではありませんが、内容で勝負できるよう努力していただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>これで、予定していた3つの議題は、すべて終了いたしました。</p> <p>次に、3のその他についてですが、本日、協議した以外のことで、なにかご意見等はございませんか。</p>
支部委員	<p>その他ではなく、先ほどの小中一貫教育に関連して、江別市としては、学校選択制というのと同時に進めているところですが、今の黒川教育長の話をして聞いて、安心したところがあります。持ち上がりではなく、学校選択制を利用して、他の校区外の子供がいても、うまくいくと思ひました。</p>
黒川教育長	<p>一方で、毎年、学校選択制はいつになったらやめるのか、大きな弊害じゃないかという意見がありますが、もう一方では、小中一貫教育を行うことで、学校選択制をやめてほしくない、学校選択制が無くなると悲しむ子供がいるという意見もあって、一概に言いきれないのですが、小中一貫教育の趣旨は、しっかり説明をした中で、学校選択制を利用するのを駄目ですとは、ならない方向がよいのではないかと、教育委員会の内部では話題にしておりますが、最終的な決定は、江別市の通学区域審議会での審議の提言に基づくとと思ひますので、それまで論議を重ねていなければと思ひます。</p>
支部委員	<p>学校選択制のメリットもありますし、小中一貫教育のメリットについても、子供たちや保護者の方にも説明し、ご理解いただいたうえで、進めていただけるのがベストだと思ひました。</p>
三好市長	<p>学校選択制にしても、小中一貫教育についても、それをうまく活用できるところと、今までの既成の枠の中では、はまりきらない人もいますので、そのような選択肢を作って、その学校選択制を利用される方がいる以上は、残しておくべきかと思ひます。今まで一緒に学んできた友達同士が、中学校で離れてしまうという問題もあり、保護者から見た時に、これはどうかなと思うところもあると思ひますが、やはり、子供目線で考えないといけないと思ひますので、学校選択制を利用したいと希望する子供たちがいる限りは、必要ではないかと思ひます。これについても、色々議論があると思ひます。時代時代で様子は変わると思ひますが、現状では、必要なのかなと考えております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>3のその他ですが、何かございますか。</p> <p>よろしいですか（了）</p> <p>それでは、事務局からお知らせがあるとのことですので、お願ひします。</p>

山崎総務課長	<p>事務局から、次期江別市教育大綱の策定に関しまして、お知らせいたします。</p> <p>江別市教育大綱は、江別市の教育分野に関する基本理念、基本方針を定めたものでありまして、地方教育行政法に基づき、江別市長が総合教育会議で教育委員会の皆様と協議のうえ策定するものと位置づけられております。今の大綱であります、平成27年の策定後、令和元年度に5年間の基本理念等として改訂され、現在に至っております。</p> <p>このため、令和6年度からスタートする次の江別市教育大綱につきましては、来年度の総合教育会議において、市長と教育委員会が協議して内容を決めることとなります。</p> <p>この工程に関しましてありますが、市長部局の側では、同じく令和6年度からスタートする第7次江別市総合計画の策定作業と並行することとなり、また教育委員会の側では、同じく令和6年度からスタートする次の江別市学校教育基本計画、社会教育総合計画、スポーツ推進計画、子どもの読書活動推進計画の策定作業と並行することとなります。</p> <p>このようなことから、大綱策定のための協議につきましては、市と教育委員会、双方の各種計画の策定方針などを踏まえ、整合性を図りながら行う必要がありますので、それぞれの進捗状況を見極めながら総合教育会議を開催することになると、事務局では想定しております。</p> <p>現時点で、開催スケジュールは見ておりませんが、以上のような事情を考慮しますと、来年度の後半にその協議を行う場を設ける必要があります、このため例年2回開催しているこの会議を、来年度は少なくとも3回開催する必要があるのではないかと想定しているところです。</p> <p>いずれにいたしましても、来年度は、次の教育大綱策定に係る協議を、この総合教育会議の場で行うこととなりますので、皆様におかれましては、事前にご承知おきのほど、よろしく願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から来年度の総合教育会議において次期江別市教育大綱の策定が行われることについて説明がありましたが、このことについて何かご意見等はございませんか。</p> <p>よろしいでしょうか。(了)</p> <p>それでは、本日の総合教育会議の予定していた議事は、全て終了しました。</p> <p>次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がない限り、新年度に開催を考えており、その際は事務局を通じてご連絡させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>熱心なご議論をいただきまして、心より感謝申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p>